



三省錄

三

9
4077
3





三省錄

住居之部

○家^ノ居^ノ兩^ノ向^ノ新^ノ築^ノと^ノ清^ノく^ノなる^ノ結^ノ構^ノを^ノ出^ノの^ノむ^ノら^ノの^ノ

大小^ノの^ノ泥^ノ小^ノなる^ノも^ノも^ノ終^ノも^ノ表^ノの^ノ書^ノ院^ノ容^ノ座^ノに^ノた^ノら

分^ノ派^ノお^ノお^ノし^ノし^ノ内^ノ取^ノの^ノ著^ノ法^ノに^ノい^ノう^ノあ^ノら^ノ分^ノ派^ノを^ノ引^ノき

とも^ノわ^ノる^ノも^ノ用^ノみ^ノの^ノ思^ノは^ノね^ノに^ノな^ノる^ノむ^ノむ^ノの^ノし^ノら^ノ皆^ノ形^ノな^ノる

し^ノら^ノの^ノ終^ノ小^ノ今^ノに^ノお^ノも^ノて^ノ而^ノの^ノ坐^ノお^ノの^ノ藤^ノ末^ノ小^ノも^ノ終^ノ内

取^ノの^ノ向^ノ屋^ノを^ノ結^ノ構^ノを^ノの^ノす^ノれ^ノで^ノお^ノは^ノら^ノ本^ノ末^ノ種^ノを^ノ改^ノめ^ノる

お^ノは^ノら^ノ倉^ノ修^ノの^ノお^ノは^ノら^ノを^ノて^ノる^ノ不^ノ財^ノあ^ノら^ノむ^ノら^ノり^ノて^ノせ^ノる^ノお

あ^ノら^ノは^ノ後^ノ家^ノを^ノお^ノ中^ノに^ノて^ノら^ノひ^ノで^ノ減^ノ一^ノ百^ノ姓^ノ町^ノ人^ノ少^ノう^ノ年

貢^ノ諸^ノ役^ノの^ノお^ノ小^ノ用^ノ金^ノと^ノ辨^ノし^ノて^ノ金^ノを^ノお^ノ志^ノを^ノお^ノり^ノ取^ノら^ノす^ノら



志賀

新加
三月
十日
本
田

善法なまむその地をまの家の入用金らうな法人の
汗泪ののろろとらかり廣堂大厦もそのなや皆
百姓の勦敵の微よりいばるなりむのさうこ小亮王
といつそのあま大なる筑山つのも宮殿と奇麗小
うら小るををらねしうば姚垣といふまきの法う
見え出の血山のこいさまの用宝塔といふ結構なる
塔ははらうまをまき善法其結う田錫といひ
人書むたう川で衆以為金碧瑩煌臣以為塗膏暴血
といひいふやあま松乾の先か小人の汗言のうま
たる金銀を用うる百姓の妬み天のふこころを
おんを削るなるぼく漢の文帝の節儉の君と称さる

宮室花園おあるまあ代のまか増益あまはや
なりあまの家の泰といふておと造らんと道をな
う用で積るまを金の入用なるをいふ文帝とま下
する百金取の中人自家の産をいふ止まあまの堯土階
三尺茅茨不剪采椽不削といひ後世天子の階は九階
と結構なるまのひさの藤末なるまを思ひま
な相らあまのまも軒端まのまのまのま
なりかまの法に通りなうすもまをいふ侯下
するまのまのまのま
將軍家の舞臺はう入のまのまの式臺小古た板
なうるまのまのまの同日の法まの中略元王道の

天中の万式であらうに天中の父母と雖も天照大神の
 日の神のありしはまを宮造り奉るなり神代卷
 云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 の万式であらうに天中の父母と雖も天照大神の
 日の神のありしはまを宮造り奉るなり神代卷
 云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 上入心世の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に

天照大神の御代に天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に
 天孫降臨の御代に天照大神は天孫降臨の御代に

たねとていふとねども亦この世をまわす可なり
子抱有るやたふ能く存する者なすむるその時代は
因縁の縁も人にも備はるるに二次にてあつた地あり
唯及万石の身上らねどもえ其松平安藝守の家を
以て知れしと云ふ石小舎といふ支の指子も実なる
いふにわが喜門の富人をいふは子も喜門を指す
かいつし掃除あをも喜門といふ相はる中と云ふ有る
ある時喜門、居合を不中といふは小虫大相成り入事あり
いふに喜門は女房をいふは喜門をいふは喜門大相成り
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門

相勤る者有るは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門

○喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門
喜門は喜門をいふは喜門をいふは喜門をいふは喜門

於天下其宅地方十餘里堀河天皇永保年中陸奥國
巨魁清原武衡友源義家拜斧鉞東征率十萬餘騎路
經本國長者迎勞義家饗十萬兵於宅三日三夜人皆
驚歎其巨富義家暴師與州三歲武衡伏誅義家凱旋
再過長者勞饗如初義家曰為人臣富豪未聞有如長
者他日為朝廷患者必在此輩不如滅長者以絕後患
竊遣衆掩殺長者云

寬永年中野人耕野多得猪鹿頭之枯骨不知其有幾
千萬相傳斯地是長者庖厨又多出破瓦其瓦堅緻有
布帛紋或有文字美澤可愛好事者用為硯絕妙世以
鄴瓦試以瓦投石石或損缺瓦如故

あるある戸里人の話にむらじに捕ちて義家なり云

さねに長者は一盤長者といひて今も其影形を遺
す村に長者を殺すの事ありしころの長者は後を遺
しむるにむらじある川に投じて死にむらじとの
とれた川の壺と金の飾とをむらじに携へて川に投じて
今その川の流るるをむらじは川下中へ山保あまの
を殺すの深を測りし川の壺の志川をむらじもたりに
美門義家のころむらじは測りし川の壺を取らむらじ今
所家と一むらじは長者を殺すにむらじはむらじのや
り壺にるは長者の壺にむらじの壺にるは長者の壺に
このや年層を考ふる小武衛謀小伏にむらじの壺に

かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や
香らばうらむ倒し 十訓抄

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や

○かたやいふなりと意竟の宮おちのうり成用ひ昔の朝や



三省録下終



